

本書の主要目次

- 1、情報収集
- 2、素材を見つけてさらに掘り下げる
- 3、ターゲットイメージの想起
- 4、受け入れ態勢の構築
- 5、ブラッシュアップ
- 6、試行
- 7、集客プロモーション
- 8、持続発展させるための戦略

まちの魅力を 引き出す 編集力

桜井 篤

J

まちの魅力を引き出す編集力

—地域の“面白さ”を発掘して、観光商品化＆プロデュース—

桜井 篤 著

同友館
1,760円(税込み)

ポストコロナの 観光振興にヒント

評者

杉原 麻美

淑徳大学人文学部准教授

二〇一九年には三二八八万人と七年連続で過去最高を更新した訪日外国人客（インバウンド）が、コロナ禍で激減し、観光立国戦略は大きな見直しに迫られた。当面は、観光消費の八割を占めるとされる国内旅行需要を喚起しつつ、中長期のスパンでインバウンドの回復を目指すことになる。そんなポストコロナの観光振興においてヒントを提示している一冊だ。

著者はリクルートで広告制作や旅行誌編集長の経験を積み、退社後は「魅力発掘プロデューサー」として佐賀市や千葉市などで観光商品化やプロデュースを成功させてきた観光振興のプロフェッショナルである。その土地に自ら一定期間移り住み、土地の魅力を五感で感じ、知己を得て、歴史や文化を感じながら地域資源の掘り起こしを行ってきたという。本書では、地域の魅力をどう発掘し、どのような協力者と商品化し、収支計画を立て、ターゲット設定を踏まえて集客プロモーションを進めていくかを、さまざまな具体例をまじえて解説している。

たとえば、著者がプロデュースした「幕末・維新 佐賀の八賢人

おもてなし隊」。大隈重信、江藤新平、鍋島直正など、佐賀が生んだ賢人が登場する寸劇で、佐賀城本丸歴史館で毎日曜日に上演され、二〇一二年以降のべ八万人が観劇している。上演作品は週替わりで「募金箱」への募金額の多少は、毎回の上演後に実施している観覧者アンケートでの評価と重なることから、アンケート結果は役者スタッフ全員で共有し、次週に活かすという。国内旅行が回復しつつある今こそ、このように来場者の声を把握しながら人がわざわざその地を訪れたくなる魅力を磨くことが必要だろう。著者は、ポストコロナで成長しているマーケットを分析し、新しいトレンドを採り入れた観光資源のブラッシュアップが大事だと強調する。いまやライバルは他の観光地ではなく、バーチャルやリモートで手に入る感動体験で、足を運んでもらうには「おもしろかった」のレベルではなく、「感動」するレベルまで高める必要があるからだ。人の心を動かす編集力が観光振興に一層必要になっている。

森戸辰男

小池聖一 著

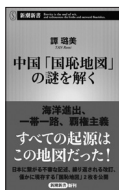
吉川弘文館
2,640円(税込み)

富士社会教育センターには森戸揮毫の「三訓五戒」の額がある。文

相として戦後教育の基礎をつくり、「ミスター中教審」とよばれた人物。本書は教育での業績が中心であり、無政府主義の論文で東大を追われた思想家としての記述はあまりない。戦前、マルクス主義の立場から自由主義者の河合栄治郎と論争し、戦後、社会党で民主社会主義者として、マルクス主義者を批判した「森戸・稲村」論争に至った経緯など説明すべき点は多い。

中国「国恥地図」の謎を解く

譚 璐美 著

新潮新書
968円(税込み)

中国は二〇一五年に「地図管理条例」を制定し、「国家による厳格な

地図の審査制度を開始した」。地図が国策に連動するからであり、「時代によって、さまざまな国境線」がひかれてきた歴史を持つ。かつての中国「国恥地図」には、尖閣はおろか沖縄、樺太までも中国版図に組み込まれていた。「植民地前の朝貢冊封」という宗属関係を近代的な領土支配と混同した主張（嶋尾稔慶大教授）である。中国の覇権主義の起源がわかる書。